

春から夏の ドクターズ・アドバイス

この季節、愛犬の
元気と健康のために
ココに注意!



新生活のスタート



飼い犬登録は犬の「住民票」。
登録&変更を忘れずに

生後90日齢以上の犬は、居住地の市町村役所(場)で「飼い犬登録」をしなければなりません。新たに子犬を迎えた方は必ず登録してください(手続きを代行してくれる動物病院もあります)。

一回登録すれば、翌年以降、更新の必要はありませんが、飼い主が変わったり転居したり、犬の死亡時には届け出が必要です。
他の市区町村に引っ越しした場合は、転出先の役所(場)に転出前の市区町村で交付された鑑札を持参して変更の手続きを。

狂犬病の予防注射は法律で定められた義務です

狂犬病の予防注射は法律で定められた飼い主の義務。春に実施される集合注射か、かかりつけ獣医に依頼するなどがあります。

換毛期の乗り切りは毎日のブラッシングで

オーバーコート(上毛)とアンダーコート(下毛)の両方を持つダブルコート犬種では、1年に2回、春と秋に換毛期があります。とくに防寒のための下毛がごつごつと抜ける春の換毛期は、大量の抜け毛に悩まされます。

毎日のブラッシングで、抜け毛を取り除くとともに、マッサージ効果で皮膚の新陳代謝アップを。皮膚病や寄生虫が増える季節なので、ブラッシング時に、湿疹や脱毛、ノミやダニがいるかななどをしっかりとチェックしましょう。耳の中やじわじわの付け根など見逃されやすい場所も忘れずに。

食べ物や水の保管・管理に注意して

夏場は、腐敗や酸化が進みやすくなります。缶詰なら開封したものはそのまま使い切る、ドライフレードも開封後は密閉容器に入れて口の当たらぬ涼しい場所に保管し、1ヶ月程度で使い切るなど、食べ物の保管・管理には十分気をつけください。

食べ残しはすぐに片付け、食器は毎回洗って清潔に保つこと。水も一日2回以上をめやすに取り替え、いつも新鮮な水が飲めるようにしましょう。



引っ越し先では、
犬もなかなか落ち
着けません。自分
においのついたも
のが身近にあると
安心するので、前
家で使用していた
ハウスや毛布をそ
のまま使い引っ越し
し前と同じ環境を作
つてあげるとい
いですね。

新しい環境では、粗相やマークインgsをすることがあります。慣れない間は、できるだけお留守番時間は短くして、家族と一緒にいてあげるよつにこまつね。



暮らしの
ケア



**梅雨シーズンは
とくに飼育環境を清潔に**

ジメジメした梅雨は、カビや細菌、ダニなどが繁殖しやすく、ペット臭も気になる季節。天気の良い日を選んで、大小屋やベッド、お気に入りのマットなどの洗濯や虫干しをして、飼育環境を清潔で快適に保ちましょう。

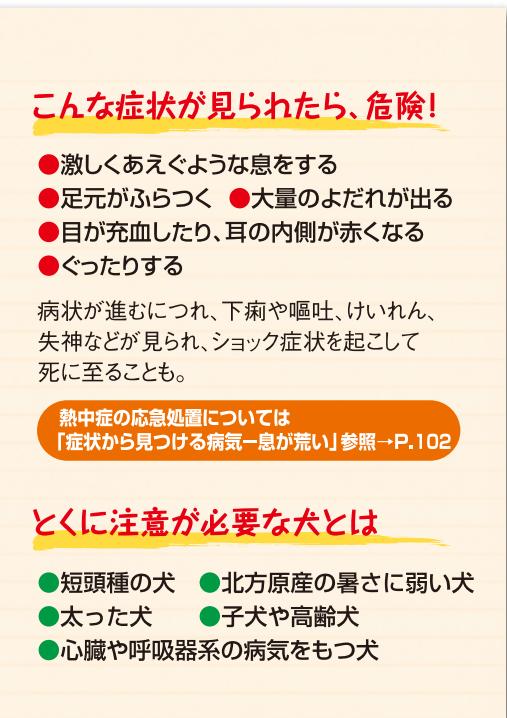


**引っ越しは
犬にとって「おお」と「へ」と**

犬を連れての引っ越しは、まず移動手段の確保から。車か、あるいは飛行機や電車か。公共交通機関を利用するなら、犬の乗車が可能かどうかを確認しておくこと。また、愛犬が長いドライブやクレート(ケージ)での移動が初めてなら、事前に慣らしておくことも大切です。



の動物病院で毎年1回必ず受けなくていいとはいえ、世界では現在も多数の死者が出ており、日本への再上陸の危険性もあります。狂犬病の予防注射は、愛犬を守るだけでなく、危険な伝染病の蔓延を防ぐ、社会の一員としての責務でもあります。子犬の場合は、まず混合ワクチンを優先させ、その後1カ月以上間隔をあけて、狂犬病の予防注射を受けるようにしましょう。



体温調節ができなくなる病気

犬は人と違つて肉球にしか汗腺がないため、汗をかけません。夏場、犬がハアハアと舌を出して苦しそうに息をするのは(パンティングと呼びます)、唾液を蒸発させて、その気化熱で体温を下げようとしているのです。

しかし、気温や湿度が高いと体温はなかなか下がらず、体温を正常に保つことができなくなつて、熱中症を引き起こします。



ちよつとした油断が死を招くことも…

を車内に残したまま離れてはいけません。駐車時は、必ず犬も一緒に連れて出でてください。

閉め切った室内

閉め切った室内も、車内と同様に室温が高くなるので、愛犬だけのお留守番には注意が必要です。真夏の閉め切った室内は、太陽がまともに差しこみ、気密性の高い集合住宅では風も通りらず、想像以上に室温が上昇します。とくにケージやサークルに入れたままの犬は、自分で涼しい場所に移動することもできず、熱中症になってしまします。

愛犬だけでお留守番させる場合は、エアコンの使用をおすすめします。冷やし過ぎても体には良くないので、設定温度を26℃前後にして、除湿モードで余計な湿気を取り除きましょう。扇風機を合わせて使うと、室内の空気が循環してより快適に。犬の体にエアコンや扇風機の風が直接当たりないように、風向きを調整しちゃお。



「ノミ」や「ダニ」は、人にうつって被害を及ぼすことも…

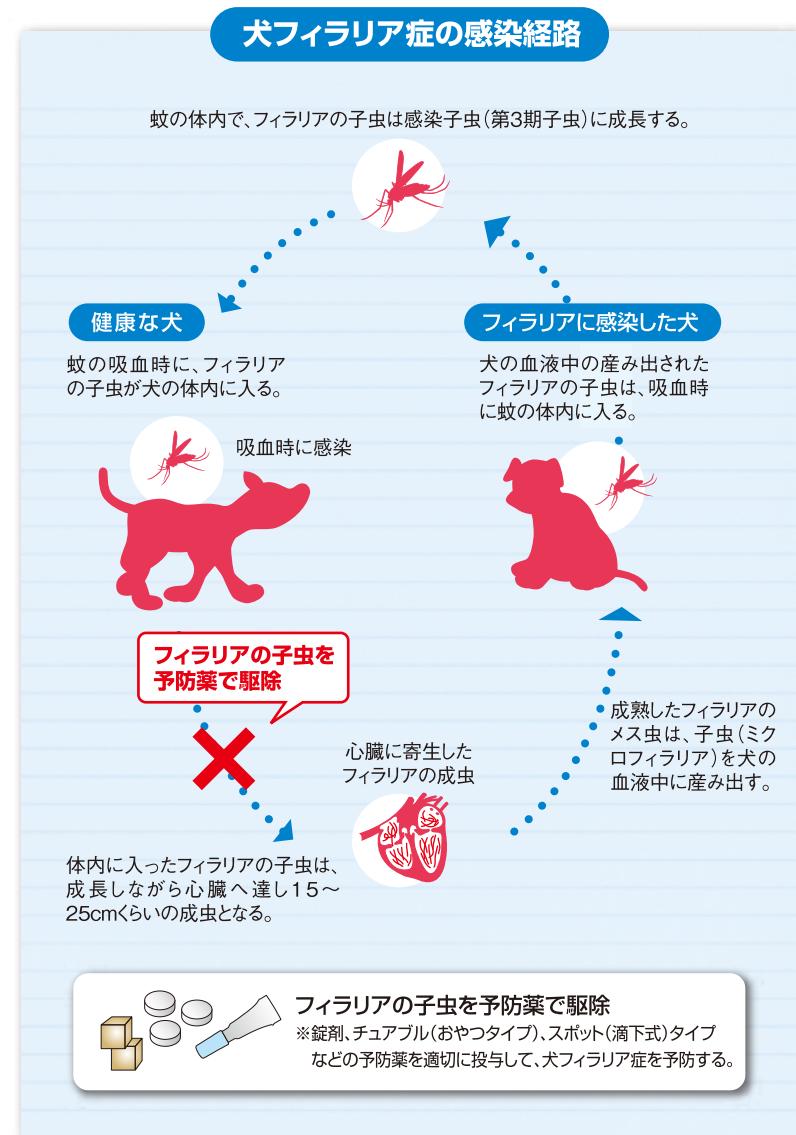
この時期、「ノミやダニ・マダニなどの動きも活発になります。寄生されるとかゆいだけではなく、皮膚病を引き起こしたり、様々な病気を媒介したり、人にうつって害を及ぼすこともあります。皮膚にノミやダニがついていないか、毛が抜けたり赤くなっているといいのがないか、こまめにスキンシップも安心して楽しめます。

**忘れていませんか？
「おなかの虫」の対策**



「犬フィラリア症」の予防を万全に

フィラリア(犬糸状虫)は、犬の心臓や肺動脈に寄生する寄生虫。犬フィラリア症は、感染犬から直接他の犬にはうつります。蚊が媒介します。感染すると、食欲や元気がなくなり、次第にせき、腹痛になります。予防については動物病院で相談しましょう。



水(お腹がふくれる)、貧血、失神などの症状へと進み、放置すれば命にかかる病気です。

犬フィラリア症の予防は、蚊の発生時期に合わせて行います。予防薬には、月に1回飲ませる錠剤をはじめ、様々なタイプがあります。予防を始める前には、動物病院で血液検査を受け、感染の有無を調べてもらつてください。

予防期間は、蚊が飛び始めて1ヵ月後(4~5月頃)から蚊が見られなくなつて1ヵ月後まで(11月~12月頃)がめやす。地域差があるので、獣医師の指示に従い、適切な予防を行いましょう。